



芦安中学校だより

第 8 号

校長 大石 浩雄

2024. 10. 3

☆令和 6 年度学校保健委員会と第 2 回学校運営協議会を実施しました

9月26日(木)の午後に令和6年度学校保健委員会と第2回学校運営協議会が行われました。はじめに学校保健委員会が行われました。ここでは、芦安小中学校の児童生徒の健康状態についての報告や校医や学校薬剤師の先生方から児童生徒の健康に関わる指導助言をいただきました。学校で行った健康診断の結果から、児童生徒の虫歯の割合が低いこと、それは丁寧な歯磨きの習慣があることが一因ではないか等報告されました。また指導助言の中では、南アルプス市では大人になってから糖分や塩分の取りすぎによる生活習慣病が多い傾向があること、その予防のためには子供のころから清涼飲料水の飲みすぎや味付けの濃いものばかりを食べることを避ける習慣を身につける必要があることなどが出されました。

学校保健委員会に続けて学校運営協議会が行われました。この会議はコミュニティスクールとして大切なものです。今年度これまでの学校や児童生徒の様子、1学期の学校評価の結果等の報告や学校としての成果や課題の報告や、今後の方向性などについての意見交換が行われました。持続可能な学校づくりのために芦安小中学校の魅力をどのようにして高めていけばよいのか、保護者や地域の方を含む学校運営協議会の委員のみなさんそれぞれの立場から意見をいただくことができました。また、この会議を通して改めて多くの方が芦安小中学校を大切に思っていること、支えてくれていることを実感しました。今回の内容をもとに今後の学校づくりを一層進めていきたいと思えます。



視力の低下の原因として、最近ではスマホ等を見ている時間の増加していることや子供の屋外活動の時間が減少していることも紹介されました。

☆学校林整備が行われました

9月30日(月)の午後に学校林整備が行われました。もともと9月27日(金)の予定でしたが雨天が予想され延期をしたためこの日となってしまいました。27日に参加協力を予定していただいていた保護者のみなさまには申し訳ありませんでした。

今回の学校林整備は、小学校グラウンド南側にあるPTA学校林「ふれあい豊かな森」の手入れと中学校で行う「輪かんじきづくり」の材料や11月に予定している児童生徒の焼き芋集会用に使う薪を集めることが主な目的でした。実際の作業では、講師の清水准一様、吉澤齊太様から間伐をしなければいけない理由や安全に間伐をするために注意することなどを教えていただきながら、間伐や間伐した木の枝落とし、丸太の運搬等に取り組みました。はじめこそ見ているだけで手が出なかった生徒がいましたが、しばらくすると汗や汚れも気にせず一生懸命作業をする生徒の姿があらこちらで見られるようになりました。「汚れるから」「大変だから」と敬遠することなく作業に真摯に取り組めたことは、将来社会の中で生きていく上で基礎となる大切な力であると思えます。今回のようなひとつひとつの体験や活動を通して少しずつでも生徒が成長していけるようにしていきたいと思えます。



☆白峰祭に向けて

運動会が終わりホッと一息と言いたいところですが、すでに生徒は次の大きな行事・白峰祭に向けて動いています。2学期は「主体的に活動する中で成長できるように」ということを大きなテーマとしています。そのため時間はかかるかもしれませんが、できるだけ多くの生徒が関わって自分たちの活動を創りあげようと生徒会役員を中心に話を進めています。9月末現在、生徒たちは中学生として白峰祭で合唱と創作演劇を披露しようと全員で確認し、合唱曲目と劇の台本が決まったというところです。どんな白峰祭になるのかを楽しみにしています。



芦安中学校だより

第 9 号

校長 大石 浩雄

2024. 10. 9

☆輪かんじきづくりに挑戦

10月4日(金)から総合的な学習の時間として3年生の輪かんじき製作が始まりました。9月の学校林整備で枝打ちや間伐材から落とした枝を利用して製作していきます。これまでもお世話になっている芦安ファンクラブの清水准一様、西村正人様、伊井和美様を講師に招き、指導を受けながら11月末まで全6時間をかけて取り組みます。今回は1回目として材料の処理や枠となる部分の曲げ加工などに取り組みました。地域の方と和やかに話をしながら長時間煮ることで柔らかくなった木の皮をむいたり、枝をかんじきの形に曲げたりする生徒の姿はとても生き生きとしていました。

輪かんじきは、昔芦安地域でも製作・出荷されていたものだそうです。時代が変わり、今はほとんど使われなくなったものですが、木材を無駄なく利用する知恵や工夫を学び自然との共存を考えるために良い教材だなどと思いました。これまでの約半年間、校長として芦安中学校で行われている自然体験活動・学習を見たり体験したりしてきました。手前味噌かもしれませんが、どれも本格的で本質に迫るものだと思います。本格的故に準備を含め手間も時間もかかりますが、芦安中学校の特色としてこうした本物の体験をした生徒が将来人間的精神的に豊かな人生を送ってくれるといいなと思います。



☆体育の授業で剣道を学んでいます

運動会が終わり体育の授業が新しい内容・武道に変わりました。武道には柔道や剣道などがありますが、芦安中学校では剣道を選択しています。授業では体育の竹鶴先生以外にもう一人、教頭先生が特別講師として指導にあたってられています。武道という私のイメージの中では、礼儀・厳格・忍耐といったものが浮かんでしまうのですが、なぜそのような所作をするのかといった理由を丁寧に伝えながら、場面によっては音楽にのせて練習をする、ボールを使って練習をするといったこともありました。剣道の経験がない生徒たちが、どうしたら基本動作や技術、武道の伝統、相手を尊重する態度などを学んでくれるか考え、工夫してくれている様子が伝わってきました。



☆YELL(エール)

先日、全校生徒が話し合い白峰祭で歌う曲が決定、朝の時間を使って練習がスタートしました。生徒たちが選んだ曲は、いきものがかりというグループのYELLという曲です。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、この曲は平成21年度NHK全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲として制作されたもので、作詞・作曲をしたいきものがかりのリーダー水野良樹氏が、15歳の頃の深く思い悩んでいた自分を思い返し、その体験をもとに書いたと言われているものです。(個人的にはいい曲だと思っています)おそらく生徒たちはこうしたエピソードを知らず、聴いた感じで惹かれるものがあり選んだのだと思います。ただ、せっかくみんなで歌おうと決めたのだから、生徒達にはこれからの練習で、ただ歌う、ただ歌詞や音程を覚えるのではなく、作者である水野氏が中学生に何を伝えようとして作った曲なのか、この曲を通して自分たちは聴いてくれる人に何を伝えようと思うのか、そうしたところまで考えて取り組んでもらえるようにしてほしいなと思います。

話は変わりますが、保護者の中にもYELLという曲に思い入れや思い出がある方がいるかもしれません。その場合はぜひそうした気持ちをお子様に話していただき、親子や家族でひとつの曲を共有していただけたらと思います。また、YELLという曲をご存じでない方は右のQRコードからYoutubeでMV(ミュージックビデオ)がご覧いただけます。聴いた感想やMVをみて感じたことなどをお子様に語っていただけるとありがたいです。こうした機会をつくっていただくと子どもにとっても励みになるのではないかと思います。ご協力をお願いします。





芦安中学校だより

第 10 号

校長 大石 浩雄

2024. 10. 28

☆中巨摩英語暗唱大会

10月17日(木)に中巨摩英語暗唱大会が行われました。本校代表として3年生の堀内拓弥さんが出場しました。審査員の先生方から声の大きさや表情などのパフォーマンスを高く評価していただきましたが、残念ながら入賞できませんでした。生徒会長として白峰祭に向けての取組で忙しい時期に、代表として練習を積み重ね大会に参加してくれたことに感謝したいと思います。また、こうした大会にチャレンジした経験が、きっとこれからの生活の中で生かされるのではないかと考えています。



令和6年度も後半に入りすでに1か月が過ぎようとしています。上級生がこうして頑張っている姿を見て、1・2年生が何かを感じ取り、それを引継いでいけるようになってしていきたいと思っています。

☆小中交流活動(中学生による英語読み聞かせ)

10月18日(金)に中学生による小学生への英語絵本の読み聞かせが行われました。題材となったのは「No, David!」という絵本です。触ってはいけないものに触ろうとする、泥だらけのまま家の中に入ってくる、食べ物で遊ぶ・・・その度にお母さんから「No, David!」と怒られるデビッド少年。「No」という否定の言葉にある母親が子供を思う気持ちを、中学生は表現しようと挑戦しました。真剣に聞いてくれた小学生に届いてくれているといいなと思いました。



☆バドミントン県新人大会がありました

10月19日(土)20日(日)にバドミントン部1・2年生が参加した県新人大会が行われました。男子シングルスに2名、女子シングルスに2名、ダブルスで男女各1ペアが出場しました。結果は男子・女子ダブルスの各ペア、男子シングルスの2名、女子シングルの1名は1回戦での敗退、女子シングルスで1年生の田中さんが1回戦に勝ち2回戦に進出できました。試合としては負けてしまいましたが、フルセットまでもつれる拮抗した試合もあり、今後の練習での頑張りに期待したいと思います。

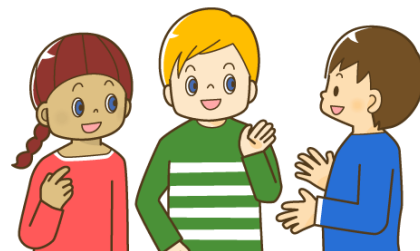
ところで、新人大会があるのはなぜでしょう。おそらく、上級生が引退してからある程度時間が経過し、自分たちが取り組んできたことを振り返る機会とするといった意味があるのでしょうか。部や個人としての目標設定は適切だったか、練習計画や練習内容は妥当だったのか、目標達成へモチベーションは維持できたのかなど、今回の試合内容や結果と照らし合わせ、来夏に行われる県総体までの活動にいかせるようにできるとよいのではないかと考えています。



☆講演会を聞いて(雑感)

先日、地域教育フォーラムという講演会に参加して、山梨大学学長の中村和彦氏の講演を聞く機会がありました。講演内容はたくさんあり、すべてをここに記すことはできませんが、印象に残ったことの一つに、現代の子どもはコミュニケーション能力の低下という問題を抱えているという話がありました。

コミュニケーション能力という「あいさつができる」「国語力や英語力があって色々な人と会話ができる」といったことをイメージしがちですが、中村氏はコミュニケーション能力とは上に書いたような目に見える能力でなく「人を思いやる力、人を慈しむ力」であり、それが以前(30年~40年前)に比べ低下していることが問題だと指摘、その問題を地域や学校として解決していかなければいけないと話していました。



確かに、いくらさわやかなあいさつや流ちょうな会話ができて、自分の要求を一方向的に言うだけ、相手の様子に気かけないような人とは、積極的に関わりたいと思うことは少ないでしょう。コミュニケーションは相手があって初めて成立するものという基本を忘れ、表面的なあいさつや会話などのできる・できないにばかりに目を奪われないように注意しなければいけません。私も校長として芦安中学校生徒の様子を振り返り、コミュニケーション能力の育成のため、何ができるのかをあらためて考えていかなければいけないと思いました。

☆白峰祭に向けた合唱練習

10月21日(月)の午後、白峰祭に向けて合唱指導で高名な埴原美枝子先生を講師にお迎えして、合唱練習が行われました。練習をのぞかせてもらったところ、参加していた生徒がだんだん主体的になっていく、自信なさげだった声が自信を持った声に変わっていく様子を目の当たりにしました。予定の時間を超えて熱心に指導していただき、生徒もそこから学ぼうとついていく姿を見て、「教育とは何か」をあらためて考えさせていただいたように感じました。指導終了後、生徒が気持ちよく思い切って歌える環境・雰囲気をつくる工夫や生徒の意欲や集中力を引き出す工夫、合唱づくりに必要な熱量などについて埴原先生が話してくださいました。



白峰祭に向け合唱を創りあげていく上で、大切なことは何か、必要なことはどんなことなのか、生徒はもちろん我々教師にも学びのあった時間でした。

☆市民座談会(市長と生徒の対談)

10月25日(金)の放課後の時間を利用して市長座談会がありました。これは、南アルプス市の金丸市長が将来、南アルプス市がどんな街になるといいか、将来の住人である市内中学生に意見を聞いてみたいと考え、いただいた機会です。芦安中学校では、欠席者を除く生徒全員が参加しました。市内の他校ではおそらく生徒会役員など代表が対談をするということになるところ、芦安中の生徒は全員が市長と直接話ができただけという事は、とても貴重な経験であったのではないかと思います。当日は生徒が自主的に会場づくりをするなど意欲的な面を見せてくれました。生徒の気配りを感じとてもうれしく思いました。



座談会は金丸市長の南アルプス市の現状と将来の展望を含むあいさつから始まり、生徒会長による学校紹介が行われ、その後意見交換という形で進められました。意見交換は、生徒が考えた将来の南アルプス市像を一人一人話すと、その都度、市長がその内容を受けてコメントをしてくれる形で進められました。自然環境の保護やそのための具体的な方策、子育てを安心して行うための支援や教育環境の整備、交通利便性の向上、人の交流が盛んになるためのアイデアなどいろいろな角度から行われた意見交換は我々教員が聞いていても興味深いものでした。



座談会を終えて帰り際に来校した市の方から、生徒一人一人がとてもしっかりとした意見を言ってくれ、今後の参考になるようなものもあり、とても良い機会になったとの言葉をいただきました。生徒のみなさんお疲れさまでした。



なお、今回座談会の時間が予定より伸びてしまい、迎えに来てくださった保護者の方をお待たせしてしまうということがありました。ご迷惑をおかけしすみませんでした。